

第3学年 道徳科学習指導案

主題名：相手の気持ちに寄り添って【B（7）親切、思いやり】

広島県立教育センター

指導主事 小泉 佑佳

1 学 年 第3学年

2 教材名 「ぼくらにできること」

（「種をまこう」編集：全国人権教護委員連合会／発行：（公財）人権擁護協力会）

3 主題設定の理由

（1）主題観

本主題は、内容項目B（7）「親切、思いやり」、第3学年及び4学年「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」を基に設定したものである。

思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。そのためには、相手の存在を受け入れ、相手のよさを見いだそうとする姿勢が求められる。具体的には、相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりすることを通して励ましや援助をすることである。また、単に手を差し伸べるだけでなく、時には相手のことを考えて温かく見守ることも親切な行為としての表れである。相手のことを親身になって考えようとする態度を育てることが期待される。

特に、中学年においては、相手の困っている状況、困っていること、大変な思いをしていること、悲しい気持ちでいることなどを自分のこととして想像することによって、相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができるようにしていくことが大切である。

（2）児童観

（略）

（3）教材観・指導観

本教材は、人権擁護協会が発行している「種をまこう いっしょに読んで考えよう『人権って何だろう』」に掲載されている話である。エレベーターに乗り込んだ和樹さんと孝太さんが、車いすのお兄さんの「ちょっと鏡を見せてくれませんか。」という言葉の意味を理解し、自分たちにできることは何か考え始めたことをきっかけにして、相手のことを思いやり、進んで親切にすることはどういうことかについて考えることができる教材である。

導入では、総合的な学習の時間で行った、高齢者福祉施設の訪問、車いす体験やアイマスク体験等の写真を提示し、車いす体験やアイマスク体験をしたときに感じた不安や大変だったことを想起させ、主題への関心・意欲を高め、自分たちにできることは何だろうという課題意識をもたせていく。

展開では、お兄さんの「みんなと同じように生活したい。自分にできることは自分でしたい。」という言葉の意味を考えさせた後、相手の置かれている状況や思いに寄り添って、自分にできることは何かを考え行動していくことの大切さに気付かせ、親切とは何かを考えさせていく。

4 人権教育との関わり

本教材では、「親切、思いやり」について学習する中で、個別の人権課題の一つである「障害者」に関連する内容を取り扱う。具体的には、障害者の方々の日常で生じる困難さに気付き、自分にできることを考えることを通して、相手の気持ちに寄り添って、共に支え合いながら生きる共生社会の実現に向けて意欲を高めることも大切にしている。

なお、人権教育を通じて育てたい3つの側面として次の3つと関連を図る。

知識的側面	人権を支援し、擁護するために活動している国内外の機関等についての知識
価値的・態度的側面	多様性にかかれた心と肯定的評価
技能的側面	他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性

5 学習指導過程

(1) 本時のねらい

和樹さんたちが、お兄さんの話を聞いて、自分たちにできることは何かを考えたことを通して、相手のことを考え、親切な行為を進んで行おうとする道徳的実践意欲と態度を養う。

(2) 本時の展開

段階	学習活動	主な発問 (○) と中心発問 (◎) 予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 (・) 評価の視点 (※)
導入	1 課題意識をもつ。	○ 車いす体験をして、思ったことは何ですか。 ・ 段差があるときに困った。 ・ 車いすで生活すると大変なことがあると思った。 ・ 困っている人がいたら、助けたいと思った。 ○ 今日は、車いすを利用するお兄さんとエレベーターで出会った場面のお話について考えていきましょう。	・ 総合的な学習の時間に高齢者福祉施設に訪問したことや、車いす体験をしたこと等を想起させることで、主題への関心・意欲を高める。 ・ 具体的な場면을想像させ、課題意識をもたせる。
展開前段	2 「ぼくらにできること」を読んで、話し合う。	○ 「なんだよ、つめてやったのに。」とつぶやいた人の言葉を聞いた時、和樹さんはどんなことを思ったのでしょうか。 ・ 詰めたのに、なんでだろう。 ・ これ以上詰められないよ。 ・ 声に出して言わなくてもいいのに。 ・ お兄さんが聞いたら嫌な気持ちになるかも。 ○ お兄さんの言葉を聞いて、みんなが急いで鏡の前を空けたとき、和樹さんはどんなことを考えたのでしょうか。 ・ エレベーターの鏡は車いすの人たちが利用しやすいようにあったんだ。 ・ 車いすの人たちが安全に降りるためのものでもあり、周りの人たちの安全のためでもあったんだ。 人権教育で育てたい3つの側面 【知識的側面】 ・ 人権を支援し、擁護するために活動している国内外の機関等についての知識 【指導のポイント】 ・ 生活の中のユニバーサルデザインについて知り、障害のある人たちの日常や彼らの思いに気付かせる。 ○ なぜ、和樹さんたちは、お兄さんに声をかけたのでしょうか。 ・ エレベーターの鏡の意味を知らなかったことを伝えたかった。 ・ お兄さんに、謝りたかった。 ・ 次から気を付けていくことを伝えたかった。	・ エレベーターに乗っている人達が奥に詰めた状況が伝わるように、板書の挿絵を動かしながら説明する。 ・ なぜエレベーターに鏡があるのかを知ったことで、お兄さんの状況が理解できたことに気付かせる。 ・ 車いすのお兄さんは鏡を見て降りることで、周りの方がけがをしないように思いやって行動していることにも触れていく。 ・ 自分だったらそのような声かけができるかどうか問うことで、和樹さんたちが勇気を出してお兄さんに声をかけたことにも、気付かせる。

展開後段		人権教育で育てたい3つの側面 【技能的側面】 ・他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性 【指導のポイント】 ・エレベーターの鏡のことを教えてくれた車いすのお兄さんの気持ちを想像し、自分たちにできることを考えさせていく。 ◎ 二人が自分たちにできることは何だろうと考えたのは、どうしてでしょう。 ・車いすのお兄さんは、みんなと同じように生活したいと言われていたので、自分たちにもっとできることがあると考えたから。 ・エレベーターの鏡のことにように、自分たちがもっと知ることによってみんなが気持ちよく過ごせることがあるかもしれないと思ったから。 ・相手の思いは、人によって異なり、話を聞いてみないとわからないことに気付いたから。 ・もっと相手のことを考えて、かかわっていくことが大切だと思ったから。 ・どうすることが本当の親切なのかと思ったから。 ○ 「親切」って何だろう。 ・思いやりの気持ちをもって、その人のために何かをすること。 ・単に自分から進んで何かをすることだけでなく、相手の思いに寄り添って行うこと。 ・相手の立場に立って、何をすればよいかを考えていくことが大切。	・ワークシートを活用することで、自分の考えをまとめさせる。 ・多様な考えに触れさせるために、なぜそう思ったのかをグループで交流させる。 ・お兄さん自身にも、できることをしていきたい気持ちがあることに気付かせ、相手の思いに寄り添って、行動することの大切さに気付かせる。 ・「親切」とは何かを考えていくことで、ねらいとする道徳的価値に迫っていく。
終末	3 本時の振り返りをする。	○ 自分にできることは何でしょう。今日の授業で学んだこと、思ったことや考えたことはどんなことですか。 ・知ったことを、周りの人たちに伝えていきたい。 ・身の回りのバリアフリーをもっと知りたい。 ・親切とは、相手の気持ちを考えて行動することだと思った。困っている人がいたら、相手の思いを聞くためにも、声をかけていきたい。 ・相手が自分にできることは自分でしたいという思いがあると思うので、相手の気持ちに寄り添った行動をしていきたい。 人権教育で育てたい3つの側面 【価値的・態度的側面】 ・多様性にかかれた心と肯定的評価 【指導のポイント】 ・障害のある人や様々な人と共生するために、自分たちにできることを考える。	・導入で用いた写真を再度提示することで、車いすの方だけでなく、高齢者の方等、様々な人がいることにも気付かせ、考えを広げさせる。 ・自分のこれまでの生活と重ねて考えさせることで、自分の考えの深まりを自覚させ、自分の生き方へつなげさせる。 ※相手のことを考え、親切な行為を進んで行おうとしている。（ワークシート、発言、行動観察）